

シャネルの製造シールについて

シャネルの製品は、製造された年代によってシリアルシールやプレートなどの仕様が異なります。今月は、製造刻印やギャランティの情報をもとに、正確な製造年月を判定するポイントを分かりやすく解説いたします。

~1986年頃	6桁のシールでかなりシンプルなつくりになっています。
XXXXXX	



1986~1994年頃	7桁のシリアルでコの字に囲むようにココマーク柄のシールがあるようなデザインになっている。
1986年~1988年頃	1989年~1991年頃
0XXXXXX	1XXXXXX



1991~1997年頃	7桁のシリアルでココマーク柄のシールの真ん中にシリアルが印字しているようなデザインになっている。
1991年~1994年頃	1994年~1996年頃
2XXXXXX	3XXXXXX
1996年~1997年頃	
4XXXXXX	



1997年~2022年頃		1997年頃から最近まで使用されていたシリアルシール。	
1997年~1999年	2000年~2002年	2002年~2003年	ギャラが 光るよう!
5XXXXXX	6XXXXXX	7XXXXXX	
2003年~2004年	2004年~2005年	2005年~2006年	2005年 8桁へ
8XXXXXX	9XXXXXX	10XXXXXX	
2006年~2008年	2008年~2009年	2009年~2010年	
11XXXXXX	12XXXXXX	13XXXXXX	
2010年~2011年	2011年	2012年	
14XXXXXX	15XXXXXX	16XXXXXX	
2012年~2013年	2013年~2014年	2014年	
17XXXXXX	18XXXXXX	19XXXXXX	
2014年~2015年	2015年~2016年	2016年~2017年	
20XXXXXX	21XXXXXX	22XXXXXX	
2016年~2017年	2017年~2018年	2018年	
23XXXXXX	24XXXXXX	25XXXXXX	
2018年~2019年	2019年	2019年	
26XXXXXX	27XXXXXX	28XXXXXX	
2019年	2020年~2021年	2021年	
29XXXXXX	30XXXXXX	31XXXXXX	



1997年から2022年と約25年間使用されたシールですが、25年間大きくデザインが変わることはありませんでした。近くで見ると2色のラメが施されており、ブラックライトで照らすと光る線が確認できます。（光る線がないものもあります）



1997年頃からシャネルの商品にギャランティカードがつくようになりました。また、**2003年頃からギャランティカードの線が光る**という仕様になりました。

ギャランティカード裏面のテキスト（全11行）は、シリアルの上桁（○番台）と同じ行数が光る仕組みになっています。1～11番台の場合シンプルに「上から○行目」が光ります。

※一部光らない個体や列が前後する場合もあります。

※12番台以降の場合（11行を超えるとき）

11行までいったら再び1行目に戻ってカウント（周回）します。

【例】

21番台 = 11行を1周（11カウント）+ 2周目の10行目 = 上から10行目

2022年頃～

2022年以降のバッグはシールではなく後記のプレートが使用されています。財布などの小物はプレートを使用时と嵩張ってしまい機能性に問題が出るためシールが新しくなりました。



近年では精巧な基準外が多いためQR部分もかなり細かく精巧に作ってあります

2022年頃～

現在も使われているこちらのプレートですが基準外の精巧性に伴い、かなり細かい作りになっています。



数字部分は渦が重なったような作りに、ココマークはドット絵のような作りになっています。



基準外の例



こちらのシリアルプレートを確認すると渦がきれいに重なっている上記と比べて重なりが確認しにくくガザガザな質感になってしまっているのがわかります。このようにプレートのみではじけるような基準外も多く出回っているため確認してみてください。

ブティックシールとリペアシール



こちらの金色をしたシールは「ブティックシール」といって国内正規店で購入された物のみについてのシールになります。

ちなみに右のアルファベット2文字は店舗を表しており「I.N」であれば伊勢丹新潟店を表します。



こちらの金色をしたシールは「リペアシール」といって国内正規店でお直しをした時に貼られるシールになります。

こちらにもアルファベット2文字は店舗を表しています。

気になること・わからないことありましたら
お気軽にブランド室までお問い合わせください。